

肺癌臨床検体から樹立した新しい培養系 CTOSs (Cancer

Tissue-Originated Spheroids) を用いた、肺癌微小環境の病態解析

はじめに:

肺癌臨床検体(外科手術及び生検で得られる)から、初代培養の一種である CTOSs (Cancer Tissue-Originated Spheroids) を樹立する手法を確立することを目的として、呼吸器内科と共同で研究を進めています。同法は、大阪府成人病センター生化学部の井上正宏先生により開発された、がん細胞の新しい培養法です。CTOS は、原発巣がもつ多くの形質を保持しており、培養細胞(CTOS)上およびマウスで再形成させた腫瘍も、原発巣と非常に近似した組織像を示すと報告されています。本研究は予備的な研究であり、将来は化学療法の効果予測及び予後の予測を目標としています。

方法:

CTOS は、肺癌患者の癌組織を酵素処理し、細胞塊の状態を保ちつつ特殊な条件で培養することにより得られます。文書による同意を取得できた肺癌患者を対象に、手術あるいは内科的生検で得られた癌組織の検体を採取します。酵素処理の後に特殊な条件で培養し、CTOS を樹立し、薬剤感受性試験等の解析を行います。また、得られた CTOS の一部は免疫不全マウスに接種して継代し、データの再現性を検討すると共に、経時的な細胞の変化を解析します。

予想される効果:

個々の患者の癌組織を用いた直接的かつ動的な解析が行えるので、患者体内での癌細胞の動態をより正確に反映するデータが得られると期待されます。今回のデータは、対象患者に直接還元することは出来ませんが、将来のより洗練された診断や治療の礎になると考えています。

切除標本の取り扱いについて

手術時に切除されたがん組織の一部は、当科で責任をもって管理いたします。個人情報情報を保護した上で、共同研究機関へ標本の一部を移送することがあります。また、通常の病理検査に提出した切除標本は病院病理部と一部は呼吸器外科研究室に保管し、手術後 1 年を経過し不要となった標本は廃棄させていただくことがあります。

研究の対象に該当する患者さんへ：

この研究への参加は、あなたの自由な意思で決めてください。たとえお断りになっても今後の治療において不利益を受けることはありません。またこの研究への参加に同意した後いつでも同意を撤回することができ、不利益はありません。同意の撤回を希望される場合は、遠慮なく担当医師にお伝えください。

本研究に関して、ご質問がございましたら担当医または下記担当者宛にお問い合わせ下さい。

この研究に対する
お問い合わせ先

〒565-0871 吹田市山田丘2-2 (L5)
大阪大学大学院 医学系研究科 外科学講座 呼吸器外科学
新谷 康
電話:06-6879-3152 Fax:06-6879-3164